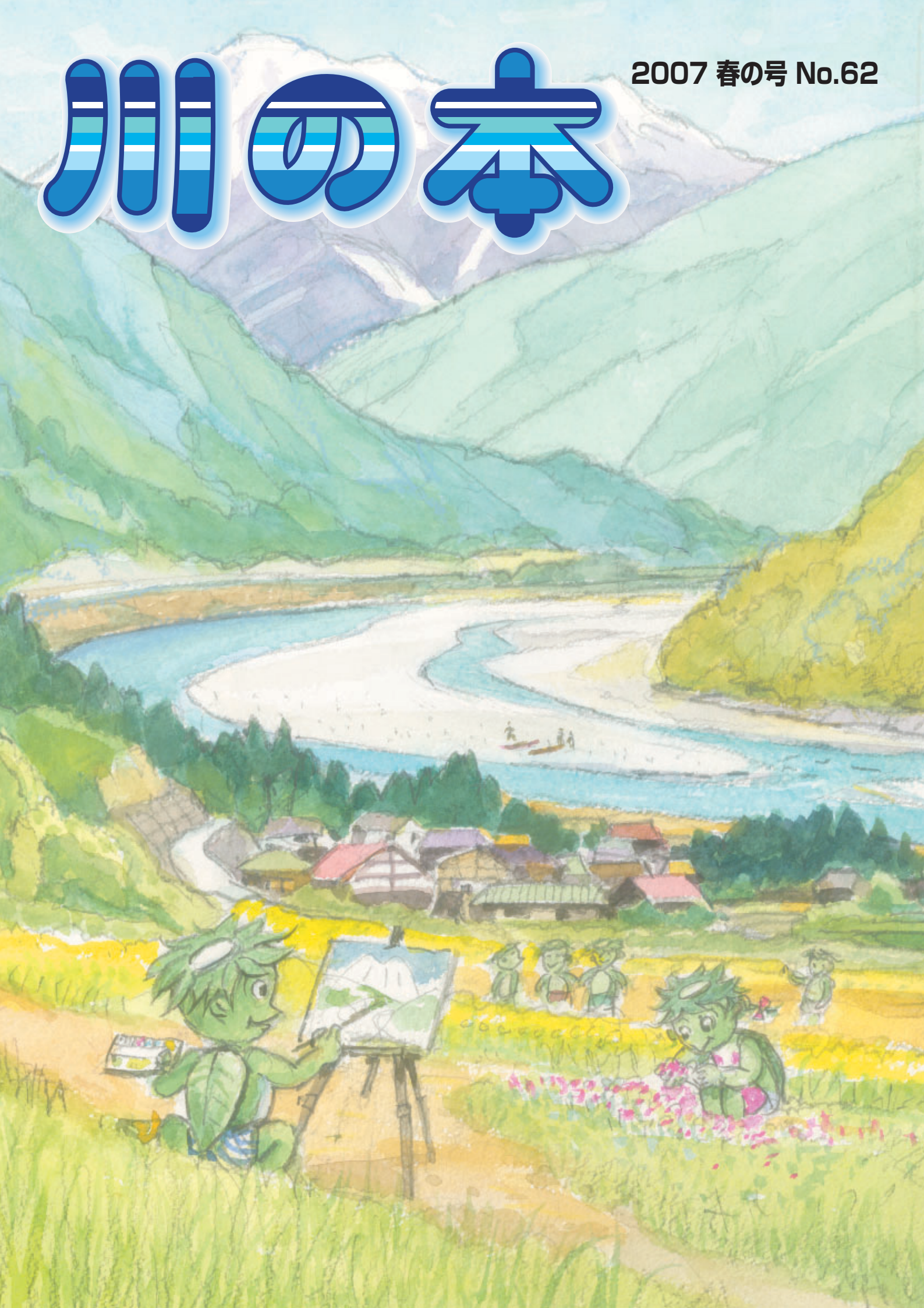


川の本

2007 春の号 No.62



こうすい ちいき まも
洪水から地域を守る

すいぼう

水防って なあに？



多摩川の洪水（1998年 昭島付近）



写真のような洪水が
もし堤防から
あふれだしたら
たいへんだ

日本は、毎年6月から7月にかけて、梅雨前線がほぼ東西に横たわり、ときには大雨を降らし、さらには、8月から10月にかけて台風などの影響で大雨により洪水となっており、全国各地で水害が発生しています。
(注1) (注2)

洪水から地域を守る！

大事な水防活動

水防活動とは、水防団の人たちなどが洪水によって水害が発生しないように、または水害が発生した場合の被害を最小限にとどめるための活動をいいます。

・河川等の巡視

地域の河川の堤防などで危険な箇所があるか、ないかなどを見てまわります。

・洪水予報

国や県などが河川に洪水のおそれがあるときに発表します。

・水防警報

洪水によって水害のおそれがあるときに、国や県などから関係する市町村などに通知されるもので、「準備」や「出動」といった種類の水防活動の内容が示されます。実際に現地の水防活動で行われる水防工法の例を左のページで紹介します。

水防活動が効果的におこなわれるには、事前の準備と計画が重要なことはもちろんですが、地域の皆さんの理解と協力が不可欠です。

水防団

それぞれの地域で実際に水防活動を行う水防団は、その地域に住む人々によって成り立っていますが、消防団の人たちが水防の活動をする場合が増えていきます。近年では、水防団の人の減少や高齢化などが問題となっています。

(注) 洪水・川の水が増え、危険な状態になること。

(注) 水害・川の水が増えたりして、人や家屋、田畑などが被害を受けること

最近では、都市部の地下街、地下鉄などでの被害が増えています。

いざという時にそなえて、
私たちが心がけて
おくことってあるの？



●まず、正確な情報を知るために、天気予報などに注意しまし
ましょう。

インターネットの活用 パソコンや携帯電話を使って、大雨や洪水に関して知ることが出来ます。
またパソコンで国や県などのホームページに接続して知りたい情報を見ることが出来ます。

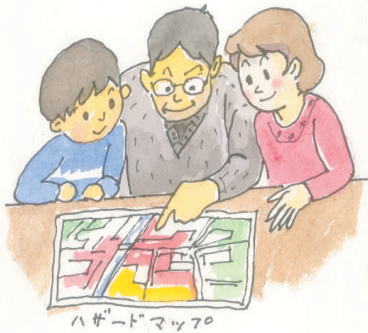
●口頭から、家族で

避難場所や避難する道について
確認をしておきましょう。

ハザードマップ（洪水避難図など）
大雨によって河川が氾濫した場合の浸水する区域や
深さを示すことで、避難場所などを表した地図です。
市町村役場などにお問合わせください。

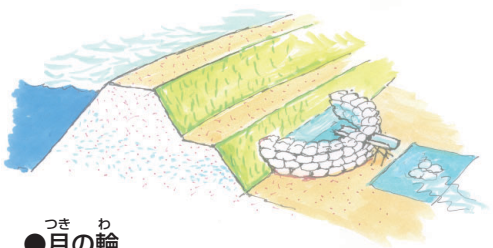
●緊急時に持っていくものを

準備しておきましょう。



すいぼうこうぼう れい
水防工法の例

このほかにも、いろいろな工法もあります。

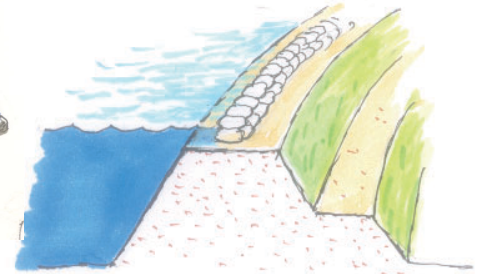


つき わ
●月の輪

堤防の裏側から、川の水がもれてきた時、土のうをつんで水をため、もれてくる水の勢いを弱め堤防がこわれるのをふせぎます。



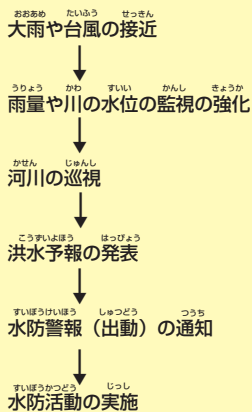
土のうづくり



ど
●積み土のう

川の水が増え、堤防などをこえそうな時に、袋に土をつめた土のうをならべて高く積み、水があふれないようにします。

すいぼうかつどう なが
水防活動の流れイメージ



水防月間では実際に水防団の人たちが参加して水防工法（上の絵）を行うなどの水防演習が行われます。そのほかにも全国各地でさまざまなイベントが開催されますので、皆さんも参加したり見学してみてくださいましょう。

日本では毎年、大雨や台風などによる洪水が原因で全国各地で水害が発生しています。このため国土交通省や都道府県などでは、その時期の前に水防の重要性を皆さんに理解していただくためにテレビや新聞を通して、またポスター、パンフレットなどによって水防月間のお知らせをしています。

毎年五月は
水防月間です。
（北海道は六月）



マメ知識

はなむすめ

茨城県 久慈川

ずっと昔のはなしです。

久慈川の下流、谷河原あたり一帯が大洪水におそわれたことがありました。家を流された多くの村人たちが命からがら西光寺に逃げて来たからさア大変。寺の境内は、けが人や病人、弱り切ったお年寄りです。その中をかがいしく働く一人の娘がいました。おためという名の十五になったばかりのかわいい娘で、気立てもよく村むらでも評判の娘でした。おためも洪水から、のがれて来たばかりで、びしょぬれでしたが、自分のことなど気にもせず、たきだしや病人の介護にあたっていました。

「あらまあ、この人たいへんな熱だわ」

おためが気付いた若者は、高熱で息もたえだえで今にも死ぬかと思われほどよわりきっています。ぬれた着物を取りかえてやったり、頭を水で冷やしたり、おための手厚い看護はその後いく日もつづきました。

そのかいがあつてか、若者はすっかり元気をとりもどし、自分の家に帰る日がきました。

「私の名は六郎といいます、おためさんは命の

おんじんです、おためさんのやさしさは、

わたしの心にしみ込んでいます。おためさんのことは

決して忘れることはないでしょう」

六郎は涙をうかべておための手をにぎりました、おためも涙をながしながらその手をにぎり返しました。おためと六郎、おたがいに熱い思いを胸に秘めての別れでした。

その後、洪水で荒らされた村もかたずき、田畑で人々が働きはじめたら、おためは少しはなれた村の豪族の屋敷で女中として働くことになりました。働き者でやさしく美しいおためは、その屋敷でもみながら親しまれる評判の娘になりました。

ある日のこと、おけいっばいに汲んだ水を運んでいたときのことです。

「重そうだな、手伝おう」

と、とつぜん横から手をさしのべてきた若者がいました。見るとそれは六郎ではありませんか、おためは夢かとおどろきました。二人は手を取りあってこのめぐりあわせを喜びあいました。なんと六郎はこの豪族のあととり息子だったのです。

おためが十九歳になったころ、六郎はなんとしてもおためと結婚したいと思い、両親にもうしでました。ところが困った問題がありました。昔は豪族は豪族の者と結婚する習わしになっていて、六郎にはすでに豪族の親同士できめた許嫁があったのです。女中奉公のおためと六郎との結婚は許されることはありません。

六郎の両親はなやندすえ、しかたなくおためを実家に返してしまつたのでした。

さて、泣く泣く実家にかえされたおためは、その後どうなったのでしょうか。たしかにおためは村にかえっていましたが、六郎が許嫁と結婚したことも、おための耳にとどいてははずでした。ところがとんと、おための姿がみえません。それどころか村人たちは、ひそひそとこんなことをし

やべってしまいました。

「おためは六郎との仲を引き裂かれて狂ったんじゃ」

「おそろしいごときゃ、」

「おためは鬼娘になつとるんじゃよ」

「久慈川のほとりにな、夜になると」

できては 六ろ一六ろ一と

ぶきみな声でうめいとる」

「頭には角まではえていてな、月の光を

あびて、ぎらっと光るんじゃよ」

おためが立つ川岸の草は枯れ、

川の水までにごってみえました。

冬もまじかになったある日のことです。

村の西光寺に親鸞というらしい上人さまがおとすれました。

西光寺のお坊さんは

「上人さま、私どもの村は何一つ不自由していませんが、

一つだけ困ったことが」

と おための話をしました。

「それは気の毒なことじゃのう」

あわれにおもった上人さまは、夜になるのをまって久慈川のほとりに出

かけて行きました。鬼となったおためは、おそろしい形相で身がまえ

ていました。上人さまは静かにその前に座禅をくみ念仏をとなえはじめ

ました。すると鬼のおためは髪をふりみだし、のどを掻きむしり、苦し

そうにもがきだしましたが、しばらくすると頭から角がぼろりとおちた

のです。するとどうでしょう、ふりみだしていた髪はもとのつややかな

黒髪にもどり、みるみるうちに美しくやさしいおための姿にもどったの

でした。

そしておためのまわりの荒れ果てていた川岸には新しい芽がふきだし、

美しい花まで咲きみだれ、久慈川の流れはきらきらと輝きながら心地よい

水音をひびかせはじめました。村人たちも涙をながしてよろこびました。以

前にもましておためはやさしく美しく、おための行く先々には花が咲くと

いうので、おためは花むすめと呼ばれ皆から愛され、幸せになったとい

ことです。

おためと久慈川

このお話は、常陸太田に残る昔話をもとに再話したものです。

久慈川は、茨木、福島、栃木、の県境にある八溝山から流れ出し茨木県の日立市、東海村の間で太平洋に注ぐ幹川の長さ124キロメートルの二級河川です。

久慈川沿岸の平野は黄門さまで有名な水戸藩の穀倉地帯として開かれてきたところです。そのころに、久慈川の水を引くために建設されたいくつもの取水堰や用水路は、改築などの手をくわえられながら現在も生きつづけています。久慈川は昔も今もこの地域に水の恵をあたえてくれているのです。

河川の整備も進んでいる久慈川ですが、むかしは、たびたび洪水災害をおこしていました。水害に備えた防備林や霞堤など自然の脅威と戦いつづけてきた跡がいくつものこっています。川はやさしい反面こわい顔も持っているのです。

さて、お話の娘おため、やさしく美しい働きものでしたが、あるきっかけで鬼のように恐ろしい姿にもなりました。どこか久慈川に似ていませんか。ひよっとしてこの花娘の話は久慈川がモデルだったのかも。そう考えるとおもしろいですね。



自分の住む地域の川をしらべて、
じまんしちゃおう！



ボクは上流の子
上流をじまんするぞ！

なんといっても、水がきれいだ。山や谷の間を
さまざまな形で流れていく姿を見せてくれる場所
なのだ。川の石や岩はゴツゴツしてるけど魚はも
ちろん、そこにはトビゲラやカゲロウなどの水生
昆虫もすんでいるよ。
ぼくたちが川をよぐすと中流、下流のみんなにめ
いわくになるから気をつけるよ

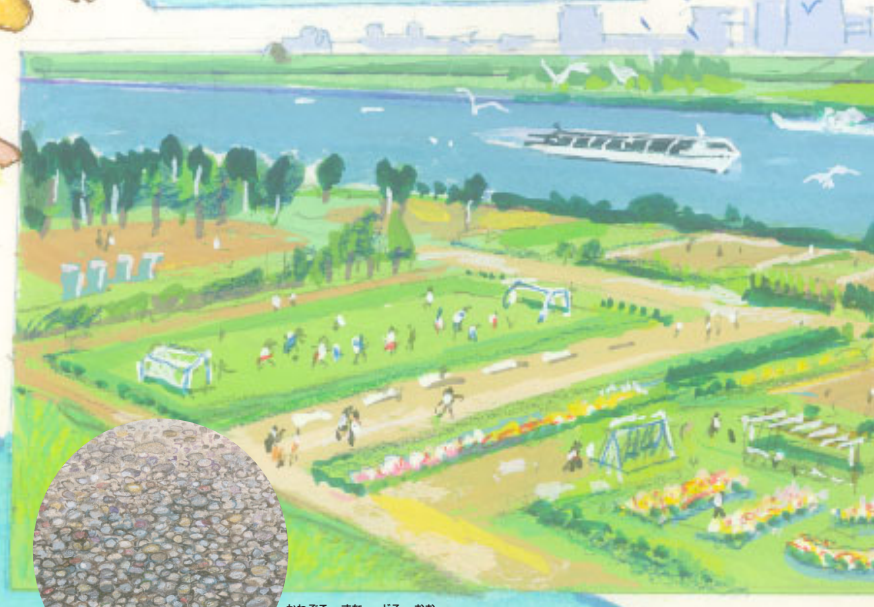


川底の石はかくばった大きな石がおおい



わたしは下流の女の子
やっぱり下流がいいと思うわ。

町を流れる川には、船もたくさん見える。
すこしくだと海へたどりつくし、水上バス
が走り、河川敷地には公園やグラウンドが
あって、みんな楽しくあそんでるよ。
こんな元気のある川がすきな。



川底は砂や泥が多くなる



ぼくは中流の子
中流をじまんします

中流は、川が山から流れ出た平野の入口だ。
水の量も多くなって川幅はひろくなり、
両岸には堤防がつくられていて、
わたしたちを守ってくれている。
せせらぎやワンドも見える。ここは
自然がいっぱいきづく、すてきな
ところだ。



川底の石は、まるみができた

春の川へでかけたら、
見てみよう！

- ・上流側と下流側の景色のちがい、
どっちが好き、その理由
- ・川から見た、まわりの景色の特徴
- ・川原の石の大きさはどのくらい
- ・そのほかに気のついたこと

調べてみよう

- ・その川の名前と、なぜ
その名前がついたのだろう
- ・どこからきて、どこまで流れていくの
だろう
- ・自分の住むところは、上流、中流、下流
のどこになるのだろう
- ・その川にかかわる地域の歴史や伝統、
くらしづくりなど、どんなものがある
のだろう

出かけるときは、かならず先生や家の人につたえてから。
そして一人では行かないこと。
危険な場所にはちがいかないこと。



おたがいに、じまんしあったけど、
わたしたちは一本の川でむすばれた
なかよしぐみよ

ヨシ (アシ) 原 (イネ科)

ぼくはヨシ原だよ。川岸などの水辺に多く見られるよ。根は水中の底の中であって、茎や葉の一部が水上に突きでている抽水植物の仲間なんだ。

ヨシ原では、ヨシキリや水鳥など、おおくの鳥たちが集まり、羽をやすめたり子育てをしている。鳥だけじゃない、魚や貝もそのほか、いろんな昆虫や動物もすんでいる。だから自然観察には、もってこいの場所だよ。

またぼくは、川をよごしている成分を食べ水をきれいにして、水質浄化にも役立っているんだ。

ヨシはアシともよばれ、ヨシズ (すだれ) や、かやぶきの屋根の材料になるなど、むかしから人のくらしにも役立ってきたんだ。

ヨシ原のこと、見直してくれたかなあ。

